

令和4年度日本語指導研究推進事業  
実践報告資料集

兵庫県教育委員会

## 目次

- 1 芦屋市立浜風小学校 . . . 1
- 2 姫路市立船場小学校 . . . 9
- 3 丹波篠山市立西紀南小学校 . . . 17

[学校名：芦屋市立浜風学校]

## 【具体的な研究テーマ】

生活言語から学習言語へと日本語能力を高めるための実践的な指導のあり方について

1 教科：単元名

国語：お話のすきな場面を発表しよう

2 実施日（時期）

令和5年1月16日（月）

3 実施場所

学びルーム

4 児童・生徒の実態に応じたねらい

(1) 児童の様子…学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など

- ・学年…2年生
- ・国籍…フィリピン
- ・日本語習得状況…DLA 結果より（10月実施）

「話す」ステージ1

「読む」ステージ1

「書く」ステージ1

「聴く」ステージ1

令和4年10月にフィリピンより編入してきた。フリピンでは通学はせず、オンラインのみで教育を受けていた。母語はタガログ語。母親も本人も全く日本語を話す事ができない状況で来日。2学年程度下の英語を話す事ができるので、現在は英語の通訳の支援を受けながら学習を進めている。

サバイバル日本語、ひらがなの読み書きから始め、カタカナや一年生程度の漢字の学習をしている。また、普段よく使う名詞や動詞、教室でよく使う文などを繰り返し学習している。

母語の読み書きについては実際に測定する事ができていないが、ほとんど出来ないと予想される。第二言語の英語についても、ほとんど読み書きができない。今後日本語の学習を進めるにあたり、母語、第二言語ともに不十分な状態なので、日本語の習得にも影響があると思われる。

- ・学習状況……………1日に3時間程度の取り出し指導や入り込み指導を行っている。また、週3回通訳の方の支援を受けている。放課後学習や家庭学習でも基本となる日本語の習得に取り組み、学級での授業参加・授業理解を目標として計画的に学習を進めている。

(2) 日本語指導に関する目標

- ①日本語で、物語を理解する。
- ②文の構成を理解する。
- ③自分の考えを発表する。

<p>(3) 主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①通訳の方の支援で、母語で話を理解する。(英語・中国語)</li> <li>②リライト教材で音読を聴く。(日本語・英語)(日本語・中国語)</li> <li>③リライト教材で音読する。(オンラインでお互いの音読を聞き合う)</li> <li>④好きな場面を選ぶ。</li> <li>⑤好きな場面の一文を視写する。</li> <li>⑥選んだ理由を言う。(オンライで発表し合う)</li> <li>⑦本文に出てくる文で、主語・述語・目的語の確認をする。</li> <li>⑧好きな場面の登場人物の心情を考える。</li> <li>⑨登場人物の気持ちを発表する。(オンラインで発表し合う)</li> <li>⑩学級の授業に参加し、好きな場面について発表する。</li> </ul>
<p>5 評価の観点 (※指導案に記載してある場合は不要)</p>
<p>6 指導内容の概要 (※指導案別途添付)</p>
<p>7 指導内容・方法において工夫したところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語と日本語(他校の児童には中国語と日本語)の音声付きリライト教材を使い、理解を促した。その際に、児童が何度も繰り返して聴くことができるよう児童のiPadに取り込んだ。また、日本語と母語を自由に聞き直すことができるように、色分けをするなどの工夫をした。</li> <li>・ワークシートに写真を多く使い、視覚支援を行った。</li> <li>・オンライン授業で他校の児童と一緒に学習を進めた。</li> <li>・登場人物の気持ちを考える際に、感情を表す言葉と顔の表現を用意し、その中から選ぶことができるように配慮した。</li> <li>・オンライ授業の中で学習の成果を発表する場を毎回設けることで自信に繋げた。</li> <li>・先行学習を行い、学級の中で活躍できるように準備した。</li> </ul>
<p>8 教材・教具</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(光村下)</li> <li>・ワークシート</li> <li>・iPad</li> <li>・地球儀</li> </ul>
<p>9 活動の様子(写真等)や児童・生徒の感想等</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>他校の児童のオンライン学習の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>本校児童のオンライン学習の様子</p> </div> </div>



母語と日本語での音声リライト教材による学習



リライトワークシートでの学習



本文を使って文法の学習



音声付きリライト教材(Keynote)

(児童の感想)

- ・友達ができて楽しかった。
- ・話がよくわかったからまたやりたい。
- ・友達に発表できたことが嬉しかった。
- ・クラスの友達に発表することが楽しみ。

(児童の様子)

- ・導入で、母語でのリライト教材を使ったことがとても効果があり、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・同じような日本語の力を持つ友達ができ、お互いに音読や発表を頑張っている様子を見ることで明るい表情で学習に参加できた。
- ・先行学習を行うことで、学級での学習にもいつもより積極的に参加することができ、自信を持って発表することができた。

10 日本語能力測定方法と評価(DLAの活用)

DLAによる日本語能力測定は、5月、1月の年2回実施し、対象の児童の日本語能力の伸びを図るとともに、効果的な日本語指導を研究するための参考として活用している。

他の対象児童は、5月の測定結果より、児童の苦手とする領域が明確になった。多くの児童は「読む」「書く」の能力が低いことがわかったので、教科の中でも特に「読む」「書く」活動を中心に取り入れるようにした。

11 実践をとおしての成果

- ・昨年度より、ICTを活用した実践・オンラインでの遠隔授業の研究推進に取り組んできた。本年度は、その成果と課題を生かし、さらに児童にとって効果的な活動となるようにと研究を進めてきた。年度の前半は、校内で教師と児童が別の教室でオンライン授業を行い、課題となったところを次のオンライン授業で改善する過程

を繰り返し行った。それと同時に、他校の児童との簡単かつ有効なやりとりの仕方を研究した。芦屋市では、全児童が iPad を貸与されており、共通で使えるツールを利用してワークシートの配布や動画の配信も行った。年度の後半には、他市の児童とのオンラインでの交流、本市の児童とのオンライン授業を行い、遠隔授業の実践として発表することができた。また、音読用の動画も、「読む文字を示しながら、ゆっくり読む」「範読を聞いてから読む」などいくつかのパターンを用意し、レベルに合わせて使うことで、文字が読めない児童でも、家庭で音読学習を行うことができた。

- ・10月にフリピンから編入してきた児童にとって、日本語での授業は負担が大きく、モチベーションを保つことも難しい時もあった。しかし、オンラインではあるが同じように日本語の習得のために懸命に学習している仲間の姿を見ることで、前向きに学習に取り組むことができるようになった。
- ・日本語の読み書きが未習得な児童にとって、母語でのリライト教材はとても有効であった。短い文章を、母語と日本語で聴くことができたり、自分のペースで何度も聴き直すことができたりするので、聴くだけでなく日本語での音読も繰り返し練習し、自分の力で習得することができていた。
- ・今まで在籍学級で言葉が分からずに授業中消極的だった児童が、先行授業や入り込みの支援を受けることで積極的に授業に参加し、自ら発表したり友達に話しかけたりするなど、児童が在籍学級で生き生きと学習に取り組む姿を見ることができた。
- ・芦屋市では独自で「日本語指導養成講座」が開設され、多くの教職員が日本語指導の研修を受けることができる機会が設けられている。外国籍の児童も増えてきている実態から、日本語指導に関心のある教員も増えている。日本語指導推進教員として、県の研修や市の研修など多くの学ぶ機会があり、日々の児童への支援に生かすことができた。

## 12 今後の課題

- ・日本語指導と学年相当の学習内容を網羅するためには、多くの時間を要する。そのために、内容を精査したり分かりやすくしたりする工夫をしていく必要がある。
- ・児童の生活言語・学習言語共に実態をもっと細やかに把握し、学校全体の職員と共通理解しておく必要がある。
- ・本年度は多くの外国にルーツのある児童の編入があった。本年度の傾向から、今後も増えていくことが予想される。本校でも十分に準備をしてきたつもりだったが、実際に多くの外国人児童を迎えることになると、より周到的な準備が必要であると実感した。どの児童の学びも止めることなく学年相当の学習内容を理解できるよう、また友達との円滑な関わりができるように、今後も研究を進めて行きたいと実感している。

## 第2学年 国語科（日本語）学習指導案

指導案 新屋敷 恵美子

1. 対象 浜風小学校第2学年2組 1名  
潮見小学校第2学年3組 1名  
計2名
2. 日時 令和5年度1月16日（月）
3. 場所 浜風小学校学びルーム  
潮見小学校こくさいルーム
4. 単元名 お話のすきな場面を発表しよう  
教材名 ～スーホの白い馬～  
光村 二年国語下
5. 指導にあたって

（児童観）

児童は今年度10月にフリピンから来日した。保護者、児童共に日本語を話すことが困難で、母語はタガログ語で、第二言語として英語を話すことができる。とても明るく積極的な性格で、編入してきてすぐに友達と元気に遊ぶ姿が見られた。

しかし、家庭環境が不安定で、母親と子ども3人で来日したが、母親が家を空ける機会が多く、夜も子どもだけで過ごしているため就寝時間が遅くなり、その影響で朝も遅刻が目立つ。また、持ち物の準備や家庭学習のサポート等の協力は全く得られない状況にある。

言葉に関しては、サバイバル日本語から始め、平仮名や片仮名の読み書き、基本的な名詞や動詞などの語彙を増やすことなどを中心に学習を進めている。

学級の中に英語を話すことができる友達がいるので、困ったときはその友達を頼ることが多い。日本語ができなくても、本人の性格と英語を話してくれる友達がいることで、日本語習得に対して必要に迫られる感覚はないように見受けられる。

また、学級の中で同じように学習を進めることは難しく、週4回1日2時間程度の通訳の方の支援を受けて学習を進めている。母語のタガログ語、第二言語の英語も「読む」「書く」はほとんどできず、現在文字として一番「読む」「書く」ができるのが日本語である。通訳の方からは英語での支援を受けており、英語の語彙も学年より2学年下相当である。

自分の意見を持ったり深く考えたりすることができるので、今後はそれをどのように表現していくかを学習していく必要がある。先行学習で行った内容では、自分から発表する場面もあり、少しずつ自信をつけていっている。

### (教材観)

本教材は、抽象的な表現も多く、児童にとって理解することが難しいと考えられる。しかし、今後学校生活を振り返った時に、本教材を思い出として語る児童も多くいると予想されるほど、心に残る教材である。児童も同じように学級で授業に参加し、自分の考えを発表できる場を作ることで、学級や学年の友達と思い出を共有できる一つの材料となればと考えている。

また、芦屋市立潮見小学校の2年生にも、同じく日本語の習得が不十分で、子ども多文化共生サポーターの方の支援を受けている児童が在籍する。その児童は母国がモンゴルなので、是非ともこの教材を学級の児童と一緒に学ぶ経験をして欲しいと考え、本校児童とのオンライン授業を行った。

本教材の内容を深く理解することだけでなく、話の流れ、文の構成など、日本語習得に必要な内容を中心に学習を進めてく。

### (指導観)

先行学習を行い、クラスで自信を持って学習を進めていくことを目標としているので、担任の教師と十分に連携を取っておく必要がある。

日本語と母語の両輪で学習を進めていけるよう、また母語が英語と中国語の児童の学習を同時に進めるために、母語の音声付きリライト教材を使用する。

オンライン授業のデメリットである音声が届きにくい面を視覚支援で補う。

場面の様子に着目し、登場人物の行動や気持ちを想像し、日本語で表現できるように支援する。

### 単元目標

- ・登場人物の行動を理解することができる。
- ・好きな場面を選び、その理由を発表することができる。

## 6. 単元評価規準

- ・教材の一部を読むことができる【知】
- ・興味を持って話を理解しようとしている。【態】
- ・好きな場面について考えようとしている。【思】

## 7. 単元計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	・子ども多文化共生サポーターの方の支援で、母語で話を理解する。	・話の内容だけでなく、モンゴルの様子などについても理解させる。	・話の内容に興味を持って聴いている。 【態】〔観察〕

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リライト教材で音読を聴く。</li> <li>・リライト教材で音読をする。</li> <li>・好きな場面を選ぶ。</li> <li>・好きな場面の一文を視写する。</li> <li>・選んだ理由を発表する。</li> <li>・本文の中の文で、主語・述語・目的語の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語だけでは理解が難しい時に、母語で確認できるように、母語での音声を用意しておく。</li> <li>・相手意識を持たせるために音読を聞き合うようにする。</li> <li>・文章から選ぶことが難しいと予想されるため場面ごとの絵を用意しておき、貼り付けできるようにする。</li> <li>・漢字にルビを打ち、ひらがなでも書けるように配慮する。</li> <li>・選んだ理由を言葉にできないときは、「気持ちの言葉」の中から選ぶことができるようにする。</li> <li>・主語・述語などを色分けし、色で対応できるワークシートで学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を理解しようとしている。【態】〔観察〕</li> <li>・文字と音が対応している。【知】〔発言〕</li> <li>・進んで好きな場面を見つけようとしている。【態】〔観察〕</li> <li>・適切な言葉を選んでいる。【知】〔発言〕</li> <li>・文の構成について理解している。【知】〔記述〕</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな場面の登場人物の心情を考える。</li> <li>・登場人物の気持ちとその理由を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を詳しく理解させるために選んだ場面の本文を日本語と母語で聴かせる。</li> <li>・気持ちを表現する言葉をいくつか提示し、絵だけではわかりにくいときは、顔の表情で選ぶことができるように準備しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを意欲的に発表している。【態】〔発言〕</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の授業に参加し、好きな場面について発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習を重ね、自信を持って発表できるようにする。</li> <li>・友達の発表にも関心を持って聴けるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで友達の考えを聴こうとしている。【態】〔観察〕</li> </ul>

## 9. 本時の目標

### (1) 目標 (国語科)

・好きな場面を見つけることができる。

### (2) 日本語の目標

・「好きな場面」を見つけ、一文を音読することができる。

## 10. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1. 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の写真をしながら、本時の学習を伝え、関心を高める。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">好きな場面を見つけよう</div>	【態】 本時の学習内容をしり進んで学習に取り組もうとしている。〔観察〕
2. リライト教材の音読を聞く。(日本語・母語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取れなかったところは繰り返して聞くように促す。</li> </ul>	
3. リライト教材の音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく発音できているか確認する。</li> <li>・お互いの音読を聞き合い、学習意欲に繋げる。</li> </ul>	【知】 文字を正しく読んでいる。〔観察〕 【態】 友達の音読に関心を持って聞いている。〔観察〕
4. 好きな場面を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の絵を全て用意し、絵の中から選ぶことができるようにしておく。</li> </ul>	【思】 好きな場面を探したり考えたりしている。〔観察〕
5. 好きな場面の一文を視写する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再度内容を理解するために一文を読んでから書くように促す。</li> </ul>	【知】 文字を正しく書くことができる。〔記述〕
6. 好きな場面を友達に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面越しに絵が見えるように、児童のワークシートとは別に同じ絵をもう一枚用意しておく。</li> </ul>	【態】 自分の考えを意欲的に発表することができる。〔発言〕
5. 今日の学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、次時の学習へとつなげる。</li> </ul>	

[学校名：姫路市立船場小学校]

## 【具体的な研究テーマ】

多文化共生～誰もが安心して学びあう学校をめざして～

1 教科：単元名 算数科：100cmをこえる長さ	
2 実施日（時期） 令和5年1月18日（水）	3 実施場所 2年1組教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子・・・学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など K児 ルーツ不明（日本国籍） O児 中国ルーツ（中国国籍）※詳細は指導案に記載 (2) 日本語指導に関する目標 ・1mくらいの長さの意味がわかる。 ・「 <input type="text"/> の長さは、1mくらいです。」「 <input type="text"/> から <input type="text"/> までの長さは、1mくらいです。」に入れて、100cmをこえる長さを表現できる。 (3) 主な学習活動 ①2～3人のペアで1mの長さをつくる。 ②教室の中で1mくらいの長さをみつけ、発表する。 ③自分の体で1mくらいの長さをみつける。（『1mくらい体そう』をする。）※別途資料参照	
5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要） ※指導案に記載	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付） (1) 1mの長さづくりをする。 ① 紙テープを用いてペアで1mの長さづくりを行う。 ② 作ったテープと1mものさしを比べ1mの量感を確かめる。 (2) 身の回りから1mの長さを見つかる活動を通して、1mの量感を身につける。 ① 教室で1mくらいの長さのものをみつける。1mくらいの長さのものを予想させる。また、発表させる際には、「 <input type="text"/> の長さは1mくらいです。」という話型を参考にして発表する。 ② 床から1mの体の部位に手を横に合わせる活動で、1mの量感を確かめる。また、発表させる際には、「 <input type="text"/> から <input type="text"/> までの長さは1mくらいです。」という話型を参考にして発表する。 ③ 『1mくらい体そう』をする。 (3) 本時のまとめをする。	
7 指導内容・方法において工夫したところ ・単元を通して、①大切な言葉、②日本語の目標、③ターゲットセンテンス（本時の学習の目標を達成するために繰り返し使う言葉）を意識した授業づくりを行った。 ・3つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援）を授業の中に入れ、教科の目標を達成できるような工夫を行った。特に本時では『1mくらい体そう』等の記憶支援に重点を置いて取り組んだ。	
8 教材・教具 1mのものさし（竹） 1mのものさし（紙） テープ はさみ ワークシート 掲示物1～9	

## 9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想

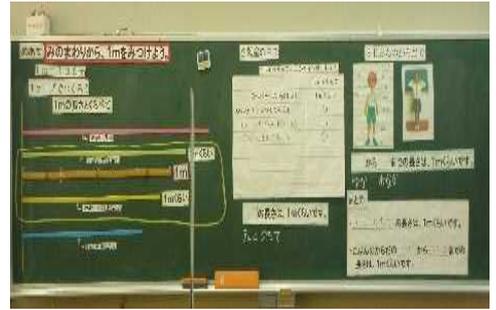
○1 mの長さづくり



○1 mくらい体そう



○授業の板書



### 【主な児童の感想】

- ・教室の中には1 mのものがいっぱいあることに気づきました。
- ・自分の体で1 mくらいをみつけることができました。
- ・『1 mくらい体そう』が楽しかったです。
- ・自分の身の回りには1 mのものがいっぱいあるんだなと思いました。
- ・次は1 mにぴったりの身の回りの物を見つけたいです。

## 10 日本語能力測定方法と評価(日本語習得度確認シートの活用)

- ・日本語指導が必要な外国人児童等の実態把握をするために、日本語習得度確認シートでアセスメントを行うことで、対象児童の実態を踏まえた授業づくりを行った。

## 11 実践をとおしての成果

- ・姫路市・帰国外国人児童生徒等受入促進事業連絡協議会における公開授業として実施。本時の目標を達成する為の「日本語の目標」、「ターゲットセンテンス（本時の学習の目標を達成するために繰り返し使う言葉）」を意識した授業づくりを行うことで、児童の理解を深めるとともに、校内や市内の先生方に日本語指導の具体的な在り方について共有することができた。
- ・3つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援）を授業の中に入れたことで児童の実態に応じた支援を工夫できた。特に、本時では記憶支援に重点を置いて授業づくりを行った。児童と一緒に『1 mくらい体そう』をすることで、1 mくらいの量感について体を動かしながら記憶に残すことができた。

## 12 今後の課題

今後、日本語指導を意識した授業づくりについて、市内各学校にさらに広げていくことが求められる。その際、研究の過程で作成をした教科指導型学習指導の考え方を付記した学習指導案のフォーマット等を活用していきたい。また、校内でも、研究実践で学んだことを生かして、「大切な言葉」、「日本語の目標」、「ターゲットセンテンス」を考えた上で、3つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援）を取り入れた授業づくりを継続的に行うことが必要である。

## 1 単元名 100cmをこえる長さ

## 2 趣旨

- 本単元では、学習指導要領「C測定」の内容を取り扱う。第1学年では、「おおきさくらべ」の学習で2つ以上のものを比較するために自分で適宜決めた大きさを基にした任意単位による測定の学習をした。第2学年では、「長さ」の学習で、長さの普遍単位cm、mmを学習する。また、初めて計器（ものさし）を用い、様々なものを実際に計測する活動を通して、長さの量感を養う。本単元で新たな普遍単位mを導入する。両手を広げた長さ、自分の体の長さ、黒板の縦の長さなど、できるだけ児童にとって身近なものの長さを測定する活動を通して、1m以上の長さのものを測ることや、単位mを適切に用いて表現する力を身につけることや、1mの量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養うことができる。さらに、長さについての加減計算の仕方を身につけることもねらいとしている。ここでの学習が、第3学年の「長さの測定」、第5学年の「歩幅の平均による歩測」、「円周の計量」の学習へとつながっていく。

- 本学級には、36名の児童が在籍している。中国にルーツのある児童が1名、国のルーツが不明の児童が1名おり、学習の中で、言語面の支援が必要である。（別紙記載。）この2名の他にも、学習言語面の支援が必要な児童が少なからずいる。

本学級児童の「長さ」の習熟度と定着度に関するレディネステストの結果は次の通りである。

問題	正答 (%)
長さの量感と単位の選択ができる。(cm)	85%
長さの量感と単位の選択ができる。(mm)	76%
ものさしの目盛りを読むことができる。	68%
直線の作図ができる。	74%
長さの計算ができる。	81%

上記の結果より、ものさしの目盛りの読み取りや正確な作図が難しい児童がいる。また、長さの計算では、単位の繰り上がりのないたし算、単位の繰り下がりのないひき算はできるが、単位の繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算が苦手な児童がいる。従って、長さの学習が定着している児童と定着できていない児童の差がみられる。

- 指導にあたっては、本単元に入る前に、ものさしの目盛りの読み方や測り方を拡大した掲示物を作成し、教室に掲示することで、既習事項をいつでも確認できる環境づくりを行う。さらに、プリント等を使って復習をさせ、定着できるようにしていく。

本単元では、まず、両手を広げた大きさは30cmのものさしでは測りにくいことに気づかせて、100cmのものさしを導入する。長いものさしを用いて測るよさに気づかせることで、100cmをこえる長さの別の表し方や新たな単位の必要性を感じさせる。次に、普遍単位mを導入して「1m20cm」を、1mを基準として、「120cm」→「100cmと20cm」→「1mと20cm」→「1m20cm」というように複名数の表し方を捉えさせる。それから、身の回りから1mの長さを見つける数学的活動を通して、1mの量感をより確かなものにさせる。また、自分の体から1mを見つける活動では、床から1mの体の部位に手を横に合わせたり、「から、までの長さは1mくらいです。」の□の中に場所と体の部位の言葉を入れて、表現させたりすることで、1mの量感を身につけさせる。また、自分の体で見つけた1mくらいの長さを使って、『1mくらい体そう』をすることで、1mの量感を記憶に残させる。そして、教室や廊下で1mくらいの長さのものをみつける活動では、1mくらいの長さのものを予想させてから、実際の長さを1mのものさしで確かめさせる。そのときに、「の長さは1mくらいです。」の□に言葉を入れて表現をさせる。さらに、教室や廊下で、いろいろなもの（場所）を測る活動を行う。その時に「からまでの長さは、 $\Delta m \square cm$ です。」「の長さは $\Delta m \square cm$ です。」の□の中に児童が見つけたものについて、言葉を入れて表現させることで、長さの量感を具体的に捉えさせる。その後、長さの加減計算について、既習事項のcmとmmの単位の関係を想起させて、式の中に単位を表現することや、同じ単位同士をたす（ひく）ことを捉えさせる。「 $\Delta m \square cm + \Delta m \square cm = \Delta m \square cm$ 」、「 $\Delta m \square cm - \Delta m \square cm = \Delta m \square cm$ 」の表現を提示することで、計算の見通しをもたせる。これらの学習を通して、1m以上の長さのものを正しく測ることや単位mを適切に用いて表現する力を身につけさせたい。また、1mの量感を身につけて、生活や学習に活用しようとする態度を育てたい。

3 小中一貫教育の指導の指針（琴陵中ブロックブランドカリキュラムにおける身につく力）

- ・1 mの量感を体得させ、1 mをこえるものの長さを、見当をつけてから測ろうとする。  
（自学力・探求力）
- ・友達と協力して1 mの長さを作ったり、長さを測ったりすることで、一人一人に活躍の場を作り、自己有用感を高める。（自己肯定感）

4 単元目標

- ・長さの単位「m」を知り、「m」と「cm」の単位を理解することができる。また、1 mのものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。【知識・技能】
- ・大きな長さの単位の必要性に気づき、1 mをこえる長さの表すのに適切な単位を判断することができる。【思考・判断・表現】
- ・身のまわりの1 mをこえるものの長さに関心を持ち、見当をつけてから測ろうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画（全6時間）

時	児童の学習内容・活動	評価	大切な言葉（新出語・既習語・難語・「表現」） *太字は特に大切な言葉
1	両手を広げた長さ	（態）100 cmをこえる長さに関心を持ち、測り方や表し方について意欲的に調べていこうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>100 cm</b>をこえる。」</li> <li>・よそう</li> <li>・はかり方</li> <li>・あらわし方</li> </ul>
2	100 cmをこえる長さとその表し方	（技）ものさしの目盛りを読むことができる。 （知・技）1 mものさしの仕組みや1 m = 100 cmであることを理解している。 （考）mの単位を使って長さを表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>1 m = 100 cm</b></li> <li>・「<b>1 mは100 cm</b>です。」</li> <li>・<b>Δm□ cm</b></li> <li>・「120 cmは1 m 20 cmです。」</li> <li>・<u>1 mのものさし</u></li> </ul>
3 本時	1 mの長さづくり	（態）1 mの長さづくりや長さがしを通して量感を身につけようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>みのまわり</u></li> <li>・<b>1 mくらいの長さ</b></li> <li>・<u>体のどのあたり</u></li> <li>・「<b>□</b>の長さは、1 mくらいです。」</li> <li>・「<b>□</b>から<b>□</b>までの長さは、1 mくらいです。」</li> </ul>
4	見当づけをいかした測定	（考）1 mの量感をもとに身のまわりのものがどれくらいの長さかを判断している。 （知・技）適切に単位を選択することができる。 （技）1 mのものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>□</b>をもとにして・・・測る。」</li> <li>・「<b>□</b>から<b>□</b>までの長さは、<b>Δm□ cm</b>です。」</li> <li>・「<b>□</b>の長さは、<b>Δm□ cm</b>です。」</li> </ul>
5	長さの計算	（考）単位に着目して、長さの計算の仕方を考えたり、説明したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ単位のかずをひく。（たす。）」</li> <li>・あわせた長さ</li> <li>・長さのちがい</li> <li>・「<b>Δm□ cm + Δm□ cm = Δm□ cm</b>」</li> <li>・「<b>Δm□ cm - Δm□ cm = Δm□ cm</b>」</li> <li>・「<b>まず、mのかずをたします（ひきます）。つぎに、cmのかずをたします（ひきます）。こたえは、Δm□ cmです。</b>」</li> </ul>

6	たしかめ	(知・技) mとcmの関係がわかる。 (知・技) 長さの量感を捉えている。 (考) 長さの関係を捉えて計算で処理することができる。	・「1mは100cmです。」
---	------	---	----------------

6 本時の学習 (第3/6時)

(1) 本時の目標

1mの長さをテープでつくったり、身の回りから1mの長さをみつけたりして、1mの量感を身につけることができる。

(2) 日本語の目標

- ・「1mくらいの長さ」の意味がわかる。(ア)
- ・「の長さは、1mくらいです。」「からまでの長さは、1mくらいです。」のに言葉を入れて、長さを表現できる。(イ)

(3) ターゲットセンテンス

- ・1mの長さ比べてどうですか。
- ・の長さは1mくらいです。
- ・からまでの長さは1mくらいです。

(4) 本時の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 理解支援(理) 表現支援(表) 記憶支援(記)	備考
1 本時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 m = 100 cmの掲示物を黒板に提示することで、1 mの長さを確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(めあて) みのまわりから、1 mの長さをみつけよう。</div>	掲示物①
2 2人組または3人組で紙テープを使って、1 mの長さを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 mの長さづくりの手順を示すことで視覚的に捉えさせる。(理)</li> <li>・1 mのテープを作るときに、テープをピンとはってたるまないようにするように声掛けをする。</li> </ul>	紙テープ はさみ 掲示物②
3 作ったテープの長さと1 mの長さを比べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板にテープの端をそろえる線を引くことで、1 mの長さとテープの長さを正確に比べさせる。</li> </ul>	1 mのものさし 掲示物③
(1) 教師が用意したテープと1 mを比べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 mの長さ</span>とくらべてと書いた掲示物を黒板に提示することで、1 mの長さと比較をする意識付けをする。(記)</li> <li>・1 mくらいの長さのテープ(1 mより長いテープ、1 mより少し長いテープ、1 mより少し短いテープ、1 mより短いテープ)を教師が用意しておき、1 mのものさしの長さと比べて、1 mくらいの長さを捉えさせる。(理)</li> </ul>	掲示物④
(2) 児童が作ったテープと1 mのものさしと比べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 mのものさしの長さと正確に比べるために、ペアで協力して、テープと1 mのものさしの端をそろえさせたり、テープがたるまないようにピンと伸ばさせたりする。</li> </ul>	1 mのものさし(紙)
4 教室にある1 mくらいの長さを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室にあるもので1 mくらいになるものを予想させてワークシートに書くことで、長さを見当づけする力を身につけさせる。(理)</li> <li>・測った後に、ワークシートの欄に「1 mくらい」に○か×をつけさせ、予想と比較させることで、1 mの量感を捉えさせる。</li> <li>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□</span>の長さは1 mくらいです。」の□に言葉を入れて、みつけた長さを発表させることで1 mの量感を具体的に捉えさせる。(表)</li> </ul>	ワークシート 掲示物⑤ 掲示物⑥
5 自分の体を使って、1 mくらいの長さを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の部位の名称を示した掲示物をはることで、体の部位の位置を視覚的に捉えさせる。(理)</li> <li>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□</span>から<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□</span>までの長さは、1 mくらいです。」の□に言葉を入れて、言わせることで1 mの量感を体で捉えさせる。(表)</li> <li>・『1 mくらい体そう』をすることで、自分の両手を広げた長さや床から1 mくらいの長さが自分の体のどの部位になるかなどを具体的に捉えさせる。(記)</li> <li>・『1 mくらい体そう』の手順を示す事で視覚的に捉えさせる。(理)</li> <li>◆身の回りから1 mをみつける活動を通して、1 mの長さの量感がわかる。【思考・判断・表現】</li> </ul>	掲示物⑦ 掲示物⑧ 掲示物⑨
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;"></span>の長さは、1 mくらいです。</li> <li>・<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>から<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>までの長さは1 mくらいです。</li> </ul> </div>	
6 授業後の意欲をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に1 mのものさし(紙)をルールを守って授業後に活用できることをさりげなく伝えることで振り返りとし、意欲をもたせる。</li> </ul>	

	【ルーツ】、在日 期間と家庭での生活言語	日本語習得状況	当該教科に関する力
O	<p><b>【中国】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本生まれ、日本国籍である。</li> <li>・家庭では、日本語と中国語の両方使って会話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話は日本語でできる。</li> <li>・授業中に、発表をしたり、ノートを丁寧に写したりできるが、ときどき、集中力が途切れることがあり、活動に遅れることがある。日本の文化を知らないため、日本語が定着できていない部分がある。難しい内容や言葉は理解できないことがあるため、教師の言葉がけなどの支援が必要である。</li> </ul> <p><b>日本語習得度確認シートでの実態把握（到達点）</b></p> <p>聴く…授業のテーマに関連した内容について、平易な言葉で説明を聞いて理解する。</p> <p>話す…授業の中でグループ学習に参加する。</p> <p>読む…物語文を読み、登場人物や場面について理解する。</p> <p>書く…物語の好きな場面について簡単な感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長さの学習では、レディネステストの結果から、長さの量感と単位の選択や長さの目盛りの読み取りや作図や長さの計算はできている。長さの計算では、単位の繰り上がりのないたし算、単位の繰り下がりのないひき算はできるが、単位の繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算はできていない。長さの学習は、定着できつつある。</li> </ul>
K	<p><b>【ルーツは不明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本生まれ、日本国籍である。</li> <li>・家庭では日本語を使って会話をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話は日本語でできる。</li> <li>・授業中に落ち着きがなく、集中して話を聞くことが難しい。そのため、活動についていけないことが多い。自分の気持ちや意見を言葉で相手に伝えることが苦手である。家庭での情報量が少ないため、日本語の定着が遅い。難しい内容や言葉は理解できないことがあるため、教師の言葉がけなどの支援が必要である。</li> </ul> <p><b>日本語習得度確認シートでの実態把握（到達点）</b></p> <p>聴く…身近な内容のまとまりのある話を聴いて、大意を理解する。</p> <p>話す…日常的内容についての質問に、簡単な日本語で自分の感想や考えを言う。</p> <p>読む…教科書用語の入った短い文章を読んで、大意を理解する。</p> <p>書く…観察したことを記録する簡単な文章を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長さの学習では、レディネステストの結果から、長さの量感と単位の選択や長さの目盛りの読み取りや作図や長さの計算はできていない。また、長さの計算では、単位の繰り上がりのないたし算、単位の繰り下がりのないひき算はできるが、単位の繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算はできていない。長さの学習は、定着できていない。</li> </ul>

# 1mくらい体そう

① よこにひろげて 1mくらい。



② たてにひろげて 1mくらい。



③ ななめにひろげて 1mくらい。



④ はんたいななめに 1mくらい。



⑤ ゆかから あごまで 1mくらい。



[学校名：丹波篠山市立西紀南小学校]

## 【具体的な研究テーマ】

「日本語指導の必要な児童への日本語能力の定着を目指した支援の在り方について」

1 教科：単元名 特別の教科 道徳 「日本のお米、せかいのお米」	
2 実施日（時期） 令和5年1月24日（火）	3 実施場所 日本語教室及び2年生教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子・・・学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など 本校に入学して2年目のA児は、滞日期間は3年を過ぎている。サバイバル日本語から日本語基礎の指導を経て、聞いて理解することはできるようになってきている。しかしながら、会話は単語やジェスチャーによる表現に留まり、自分の状況や気持ちを表現できないことに課題がある。また、状況把握の弱さや融通の効かなさなども見受けられ、学習に向かう態度が整いにくく、学習進度にも遅れが見られるようになる。そこで、教科学習に合わせて状況や自分の気持ちを日本語で話したり書いたりする活動を加えながら文型や表現を学ばせてきた。 現在は教科につながる初歩的な学習から基礎的な学習へと学びが進んできている。日本語教室ではリラックスしながら学習に臨み、学習内容にも関心を示して意欲的に取り組めるようになってきている。	
(2) 日本語指導に関する目標 ①教材の語彙 本時の中で体験や経験を通して考えながら、次の語彙を習得する。 「つやつや」「できた（生まれた）」「つたわる」「ほかの国」「しゅるい」「食べ方」 ②表現（文型） 次の表現を使って気持ちを発表することができる。 「～してみたいですか。」「～してみたいです。」 ③発表の語彙 次の語彙を使って、発表することができる。 「あじ」「しょっぱい」「にる」	
(3) 主な学習活動 ・音読をしながら語彙の意味や表現方法を知り、練習する。 ・具体物やICTを活用して、教材文全体のイメージを持つ。 ・お米を使った料理は世界中にあることを知り、自国のお米を使った料理（フェジョアータ）を紹介する準備を行う。 ・次時の在籍学級での学習に意欲を持つ。	
5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要）	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付）	

## 7 指導内容・方法において工夫したところ

- ・ 自国や日本の文化に目を向けながら、自国への誇りや世界の国々の文化に関心を抱けるように重点を置いた指導を行った。
- ・ 日本語の目標を達成するため、以下の5点について指導方法の工夫を図った。
  - ①既知の語彙と表現（文型）について、未習得か習得済かを確認した。
  - ②実際に体験したり、経験的に知っていることと関連づけて指導した。
  - ③インターネットサイト、具体物や実物そのものを提示した。
  - ④「話す、読む、書く、聞く」をバランスよく取り入れるようにした。
  - ⑤次時の在籍学級で発表できるようにノートづくりを工夫した。
- ・ 道徳のねらいを達成するために以下の2点について指導の工夫を行った。
  - ①主人公の気持ちに寄り添うために、児童自身の体験と結びつけたり、例示したりして気づきを促した。
  - ②事前に自国の食文化（フェジョアータ）について家族に聞き取りを行い、在籍学級で紹介することに意欲を持たせ、自国の文化への誇りを抱かせた。

## 8 教材・教具

- ・ 具体物（米2種類、炊いたごはん、ジャガイモ）
- ・ 写真、絵カード、挿絵、付箋
- ・ 文型やキーワードをまとめた掲示物
- ・ 教材語彙、発表語彙カード
- ・ タブレットPC
- ・ 地球儀、世界地図

## 9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等



語彙が表す様子を実物で確かめる。



習得した語彙を使って発表する。



教科書の文章から語彙を確認し作文をする。



語彙が示している意味を具体物で確かめる。



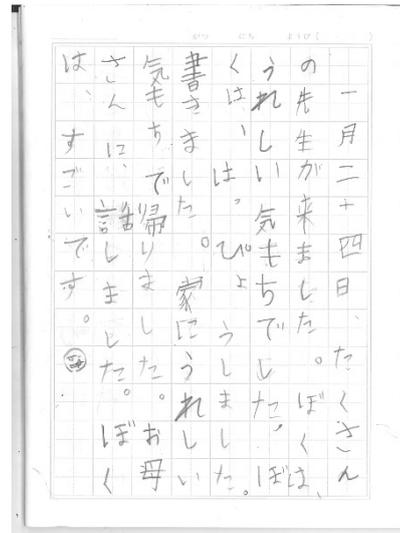
新しい文型の表現の仕方を練習する。



取り出し指導での学びを活かし、在籍学級で発表する。



事前にブラジルのお米を使った料理「フェジョアーダ」について家族に聞き取ったことを在籍学級で紹介する。



本児の作文

## 10 日本語能力測定方法と評価（DLAの活用）

DLAの測定は、日本語指導が必要な児童全員に母語と日本語の両方で実施した。測定者は日本語指導研究推進教員及び市の日本語指導員である。DLAの実施により、対象児童の獲得している語彙の量や質、理解の状況などを把握することができた。評価をもとに個別に対応した指導の方向性を職員及び関係機関と共有し、指導に生かすことができた。

### 【本児のDLAの結果より】

本児は、聞いたり話したりする力が付いてきている。日本語で授業に参加することへの意欲が増し、友だちとのコミュニケーションもスムーズになってきた。各教科に関する学習用語、心情や情景を表す語彙、教材にある文型などの更なる定着を図るため、継続して学び続けられるよう学校生活のあらゆる場面において指導、支援の工夫を行うことが必要である。

## 11 実践をとおしての成果

- ・ 取り出し指導で日本語の表現や語彙を習得してから在籍学級で学ぶというサイクルが定着したことで、学習に向かう態度や内容の理解が進んだ。
- ・ 年度当初は見られなかった日本語で学習しようとする意欲が高まってきている。
- ・ 事前に学習内容を保護者と共有しておくことで、家庭での学びが授業に活かせられ、主体的に授業に参加し、多角的に主題にせまることができた。
- ・ 日本語指導研究推進教員と在籍学級担任とのスムーズな連携の方法を研究できた。

## 12 今後の課題

全ての教科を在籍学級で学ぶことができるよう、今後も指導の工夫について計画的に研修や実践を重ねていく必要がある。更には、日本語指導が必要な児童への柔軟な対応や配慮がなされた指導を継続的に続けていくことが課題である。

## 第2学年 特別の教科「道徳」学習指導案

指導者 西本 ひなの(2年担任)

1 日 時 令和5年1月24日(火)6校時(14:10~14:55)

2 資料名 「日本のお米、せかいのお米」(どうとく2 きみがいちばんひかるとき)

3 主題名 せかいのことを 知ろう 【内容項目】C(16)国際理解、国際親善

4 ねらい

世界の米料理を調べる「わたし」の姿を通して、米を使った料理は世界の国々で作り出されていることについて考え、様々な国の文化に親しもうとする心情を育てる。

5 日本語の目標 表現(文型)

次の表現を使って気持ちを発表することができる。「～してみたいですか」「～してみたいです」

6 指導にあたって

本学級の児童12名は、何事にも前向きに取り組むことができる。幼稚園の頃からA児と一緒に過ごしてきたこともあり、学習の中では、A児が自分の思いをうまく伝えることができずに困ることがあると、急かすことなく「ゆっくりでいいよ」「伝わっているよ」と優しく声をかけ待つことができる。また、算数科の九九などA児が日本語とは別に母語で伝えたいという思いがあるときは尊重し、A児の母語であるポルトガル語での言い方を覚えようとするなど自分たちの知らないことを知ろうとする気持ちは高い。一方で、休み時間などで、友だちに対して自分が悪いことをしてしまったと気づいても、すぐに「ごめん。」と謝ることができない児童もいる。また、言葉が分からないことや育ってきた文化が違うことでのA児の不安な気持ちを理解できずにトラブルになることもある。

本教材のあらすじは、昼食におにぎりを食べた主人公の「わたし」が、お米のおいしさについて両親に話す。お米は日本から出てきた食べ物だと思っていた「わたし」だったが、両親からお米が大昔に他国から伝わってきたものである事を知り、驚く。お米を使った料理はいろいろな国で食べられていること、種類の違うお米や様々な食べ方があることを聞いた「わたし」は、世界のお米の食べ方を調べてみるという内容である。そういった料理を食べてみたいと思うようになった主人公の姿を通して、「お米」という身近なことから世界に目を向けることで、国際理解、国際親善のすばらしさについて気づき、普段の生活の中で、少し世界に目を向けるだけで違った見方ができたり、自分にできることを見つけたりすることの気づきにも繋がられる教材である。

指導にあたっては、まず、他の国の料理がどこから来たか考えさせる。児童にとって料理は親しみのある話題であるため、興味を持って学習に参加しようという意欲を引き出したい。次に、生活の中に溶け込んでいるお米が、実は他国から入ってきたものであることを知ったときの主人公の驚きを共有しながら学習をすすめ、普段食べているお米が実は世界とつながっていると知ることで自分の生活と世界とのつながりを感じさせたい。さらに、教材中にある世界のお米を使った料理を6品紹介し、日本のお米を使った料理とどう違うのかを考えさせる。黒板にそれぞれの料理の写真を貼ることで、初めて知ったことへの驚きやどのような味なのかを知りたいという興味など様々な思いや考えを引き出しやすくする。さらにA児が「フェジョアード」について紹介する場面を仕組む。また、本時を国際理解、国際親善のきっかけとし、A児のことをもっと知りたいと考えられるようにしたい。これらを通して、様々な国の文化に親しもうとする心情を育てたい。

7 展開

学習活動	おもな発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎評価
<p>1. 様々な国の食べ物を見てどこの国から伝わってきたものか考える。</p> <p>2. めあてを確認する。</p>	<p>・スパゲッティ→イタリア ・餃子→中国 ・おすし→日本</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">お米はどこの国からつたわってきたでしょう。</div> <p>・日本 ・中国</p>	<p>・料理の写真やクイズを通して、習への関心を高める。を見せる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <span style="font-size: 1.2em;">㊦</span> せかいのお米をつかった りょうりを知ろう         </div>		
<p>3. 教師の範読を聞く。</p> <p>4. それぞれの場面について考える。</p> <p>・お米が他の国から伝わってきたことを知ったとき</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">お米がつやつやしているってどういうことでしょう？</div> <p>・お米が光っている。 ・おいしいということ。 ・湯気が上がっている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">お米が他の国から伝わってきたことを知ったとき、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。</div> <p>・日本以外でもお米を食べるんだ。 ・知らなかった。 ・びっくりした。 ・どんな料理があるのかな。</p>	<p>・「お米」の「お」に注目させ、日本では丁寧な言い方をする時や、大切な言葉に「お」をつけている事に気づかせる。</p> <p>・「つやつや」という言葉の様子について児童の経験と結び付けながらイメージさせる。</p> <p>・ワークシートに書かせる。 ・わたしの気持ちに共感させ他国のことを知りたいという興味につなげる。</p>
<p>5. 世界のお米を使った料理を知る。</p> <p>・写真を見て思ったことを発表する。</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;">せかいの お米をつかったりょうりを見て、見つけたことを発表しましょう。</div> <p>・たくさんの具が乗っている。 ・お米の色が違う。 ・麺料理だから、お米を使った料理じゃないかも？ ・食べてみたいな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ほかに知っているお米をつかったりょうりはありますか。</div>	<p>・それぞれの国を、世界地図で確認していくことで、お米を食べている国がたくさんあることに気づかせる。</p> <p>・児童の発言を受け止めながら、他国の食文化への目を向けさせ、親しみを抱かせる。</p>
<p>6. 今日の学習で学んだことを振り返る。</p>	<p>・お米が大昔に他の国から伝わってきたことを知って驚いた。 ・フェジョアードを食べてみたい。 ・他のお米をつかった料理も知りたい。 ・料理以外のことも調べてみたい。</p>	<p>・ワークシートに書かせる。 ◎日本のお米だけでなく世界のお米を使った料理を通して様々な国の文化に親しもうとしている。</p>

## 第2学年 特別の教科「道徳」学習指導案

指導者 山田 枝里(日本語教室)

- 1 日時 令和5年1月24日(火) 5校時(13:15~14:00) 日本語教室
- 2 教材名 「日本のお米、せかいのお米」(どうとく2 きみがいちばんひかるとき 光村図書)
- 3 主題 せかいのことを 知ろう 【内容項目】C(16) 国際理解、国際親善

### 4 ねらい

世界のお米を使った料理に興味を持った主人公の姿を通して、ブラジルや日本の文化に目を向けさせながら、母国への誇りと世界の国々の文化に親しもうとする態度を養う。

### 5 日本語の目標

#### ①教材の語彙

本時の中で体験や経験を通して考えながら、次の語彙を習得する。

「つやつや」「できた(生まれた)」「つたわる」「ほかの国」「しゅるい」「食べ方」

#### ②表現(文型)

次の表現を使って気持ちを発表することができる。

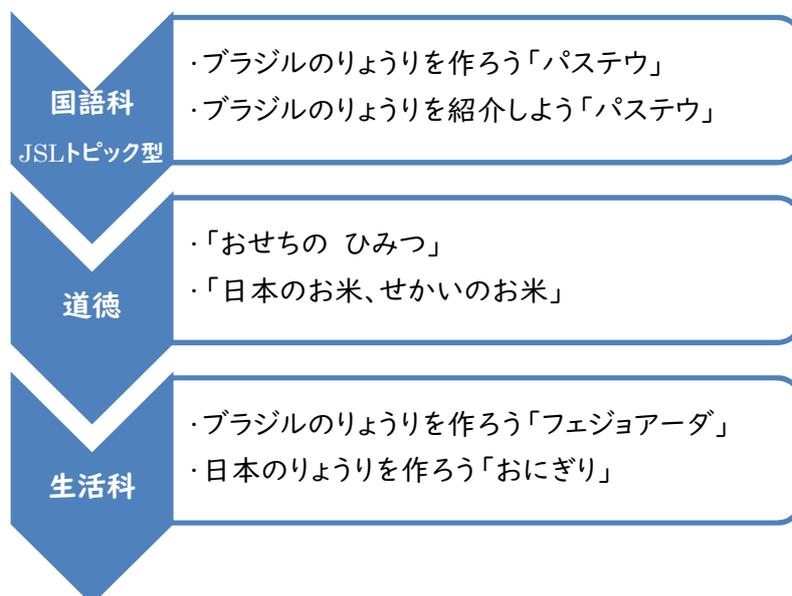
「～してみたいですか。」「～してみたいです。」

#### ③発表の語彙

次の語彙を使って、発表することができる。

「あじ」「しょっぱい」「にる」

### 6 各教科との関連



7 指導にあたって

	児童をとりまく環境と背景	日本語習得状況 (DLA)	学習に関する力
A 児	<p>【ブラジル国籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年来日</li> <li>・令和3年度入学</li> <li>・家庭内言語は、ポルトガル語が中心で、姉弟間では日本語で話すこともあるが、ほとんどはポルトガル語である。親とはポルトガル語での会話である。</li> </ul>	<p>導入会話</p> <p>母語 88%</p> <p>日本語 68%</p> <p>語彙力チェック</p> <p>母語 80%</p> <p>日本語 42%</p> <p>話す</p> <p>ステージ2</p> <p>読む</p> <p>ステージ2</p> <p>書く</p> <p>ステージ2</p>	<p>母国をたいへん大切に思っており、ブラジルや家族に関する話題にはたいへん敏感である。「およげないりすさん」では、みんなで力を合わせて助け合うことで解決できると気づき、進んで発表していた。「きいろいベンチ」では、みんなで使うものを汚したら、謝らなくてはいけないと正直な気持ちで行動することの大切さに気づいていた。これまで、登場人物の気持ちや場面の様子を感じ取り、自分の体験と重ねて考えたり、自分の気持ちに近い日本語を見つけだしたりして発表することができるようになってきている。そのための事前指導を毎週設定し、学習内容やストーリーを理解してから在籍学級の授業に臨んできた。また、内容によっては、自分の気持ちをポルトガル語で母語支援者に伝え、日本語の言い方を示してもらい発表することもあった。</p>

本校に入学して2年目のA児は、滞日期間は3年を過ぎている。サバイバル日本語から日本語基礎の指導を経て、聞いて理解することはできるようになってきているが、単語やジェスチャーでの会話に留まり、自分の状況や気持ちを表現できないことが多い。また、状況把握の弱さや融通の効かなさなども見受けられ、学習に向かう態度が整いにくかったり、学習進度にも遅れが見られたりする。そこで、教科学習に合わせて、状況や自分の気持ちを日本語で話したり書いたりする活動を加え、文型や表現を学ばせてきた。

現在は日本語基礎から日本語と教科の統合学習へと学びが進んできている。日本語教室へは毎時間足早にやってきて、その日の学習内容に興味を示したり、自分のできごとを楽しそうに話したりしてリラックスしながら学習に臨んでいる。休み時間なども活発に活動し、その日の授業で学んだ言葉や文型を使って教師や友だちに話しかける様子も見られるようになってきた。さらに、日本語教室で学んだことを在籍学級での授業で活用して発表することもできつつある。また、1学期には見られなかった積極的にクラスの友だちと関わろうとする姿が、2学期以降に見られるようになってきており、友だちとの会話を通して生活言語が身に付いてきている。

これまで道徳の時間では、A児は内容によっては母語支援を受けながら在籍学級で学習してきた。事前学習として、日本語教室で教材の大まかな内容を母語や簡単な日本語で聞いてあらすじを理解したり、挿絵や写真、図をもとに場面を捉えたりして、自分の考えを持ってから在籍学級で授業を受けてきた。しかし、来年度以降は、取り出し・入り込み指導や母語支援は受けられない可能性が高く、A児に適した学び方を見い出していく必要がある。指導者は、リライト教材や絵や図、ICT、やさしい日本語、個別の事前指導など、学習内容の理解を図ると共に日本語能力を上げていくための工夫を行いながら指導することが求められる。

内容項目 C(16)の「主として集団や社会との関わりに関すること—国際理解、国際親善—他国の人々や文化に親しむこと」においては、A児は母国であるブラジルをこよなく愛し、オリンピックやサッカーワールドカップなどの折には、「ブラジル No.1」と誇らしげに話している様子がよく見られた。また、母語であるポ

ルトガル語に強い関心を持ち、1年生の時にはほとんど読めなかったポルトガル語において読める文や語彙が増え、さらには書けるようになってきている。これらは、自分のアイデンティティーを大切にしたいという、心の表れであることがよく分かる。一方、現在住んでいる日本やその文化について関心を示すのはゲームやアニメが多く、住んでいるから日本語を学ぶといったような必然的な関わりのほうが多い。

本教材は、主人公がお米を使った料理への関心を示したことから、自国のものだと思っていたお米が世界共通のものであることに驚き、世界各国のお米を使った料理を調べることで国によって様々なお米の食べ方があることを知る姿が描かれている。日本で暮らす外国籍の子どもたちにとって、国は違っても共通の米文化を取り上げた本教材を学ぶことで、ふるさとである自国の文化のよさにあらためて気づくことができ、自分が住んでいる日本に対しても親しみを持つことができる。さらにお米を食べている世界の国々にも関心を持つことは、他国の文化を尊重する気持ちへとつなげることができる教材である。

指導にあたっては、在籍学級での学習にA児が見通しを持ち、内容の理解や授業への参加を促す足場かけを行う。そこで、日本語指導教室では、まず教材文の中の言葉からA児の知らない言葉を精査し、音読や読み取りの場面で言葉の意味や使い方の確認を丁寧に行っていく。中でも「日本でできたもの」「他の国からつたわってきた」「お米の食べ方」といった表現では、「日本で生まれたと思っていたものが、実は他の国から伝来してきたものであり、それぞれの国の料理の仕方で食べられている」と文脈に即した言葉の意味を押さえながら、主人公の心情に重ねさせ、他文化への関心を喚起させたい。また「つやつや」に込められた意味を五感に訴える具体物を活用することで、言葉の持つイメージを深めさせ、そこから連想する言葉を引き出して発表場面で使える言葉を増やしていきたい。これらの表現を中心として「食べてみたい」という未体験への願望を表現する「～してみたい」の使い方にも理解をつなぎ、文型を使った会話を通して習得を図っていく。

世界の様々な米料理を知り、自国の料理に目を向ける学習活動では、A児の好きな自国の料理「フェジョアード」について、知っていることや調べてきたことを発表させる。自国の文化を話す中から味についての語彙を引き出したり、料理の方法について語彙を広げたりして、授業参加への意欲を高めておきたい。在籍学級においても、自国の料理を発表することができれば、A児の自信にもつながっていくと期待できる。学級での発問や振り返りにおいて、A児が自分で考えて活動できるように、A児の感想や考えを受け止め、指導目標とする文型や言葉を使って話したり、書いたりする活動を十分に作ることに配慮していきたい。さらに、日本語学級での学びをもとに友だちとの意見交流を通して自分の考えを持ったり、自国の文化を話したりする中で、日本の文化への興味を持つとともに自国の文化へ誇りを持ち、自己のアイデンティティーを肯定的に受け止める力にもつなげていきたい。

8 展開

学習活動 ★表現の例		指導上の留意点 ◎評価
1 本時の学習の流れを知り、見通しを持つ。	2分	・本時の流れを説明し、安心して学習できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     ◎め せかいのお米をつかったりよりを知ろう                 </div>		
2 範読を聞く(1回目)。  3 読み進めながら、具体物や写真等から教材の語彙の意味や表現(文型)を知り内容を確かめる。  ・「つやつや」の意味を具体物から考える。 ・「できた」の意味を考え練習する。 [ ★パステウは、(ブラジル)でできた食べものです。 ] [ ★すしは、(日本)でできた食べものです。 ]  ・「つたわってきた」の意味を考え練習する。 [ ★(サッカー)は、ほかの国からつたわってきました。 ] [ ★(ハンバーガー)は、ほかの国からつたわってきました。 ] (ノート記入・発話練習)	2分  25分	・挿絵やイメージしやすい写真を示しながら読む。  ・2回目では、教材の語彙と表現(文型)、内容を確認しながら読む。  ・習得させたい言葉や文型については、具体物を用いて、言葉のイメージを持たせ、例示して発話練習を行ったり、ノートに記入させたりすることで理解と定着を促していく。 ( ・「つやつや」に込められた肯定的なイメージ。 ・「できた」は、生まれたという意味。 ・「ほかの国」は、自分の国ではない国。 ・「つたわってきた」は、伝来したという意味。 )
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     お米が他の国から伝わってきたことを知ったとき、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。                 </div>		
・「わたし」の驚いた気持ちを読み取る。  ・「しゅるい」の意味を具体物から知る。  ・「食べ方」の意味を知る。  ・「わたし」の興味に注目させて、最後の部分を読む。 ・「あじ」の種類を考える。  ・「食べたい」と「食べてみたい」の違いを考える。 ( )を食べてみたいですか。 ( )を食べてみたいです。		・主人公の驚きの心情について対話を通して引き出し、ノートに書かせ、発表させる。  ・ジャポニカ米、インディカ米を見て同じお米でもいろいろなもの(種類)があることを気づかせる。  ・具体物や絵カードで言葉のイメージを深めさせる ( ・「食べ方」は料理の仕方。 ・「じゃがいもの食べ方」フライドポテト、コロッケ、ジャーマンポテト、ポテトのチーズ焼き )  ( ・しょっぱい、あまい、からい、すっぱい、にがい )  ・未体験のことを実現させたい表現の「食べてみたい」はまだ一度も食べたことがない時に使うことを押さえる。
4 世界のお米を使った料理を知る。	5分	・世界の米料理の写真を提示しながらお米を使った料理は世界中にあることに気づかせる。 ・「～てみたいと思いました。」の練習をさせる。 ・ブラジルのお米を使った料理がないことに気づかせる。
5 自国のお米を使った料理を紹介する文を書く。 [ ★まめと肉をいっしょににます。 ★ごはんといっしょに食べます。 ★しょっぱい味です。 ]  ・発表の練習をする。	10分	・家庭で聞き取ってきている内容を丁寧に取り上げながら言葉を引き出したり確認したりする。  ◎日本語の目標に示した語彙や表現を使って自分の伝えたいことを話したり、書いたりしている。 ・自信を持って発表できるように練習させる。
6 今日の学習を振り返り、次時(6校時)の見通しを持つ。	1分	・次時の在籍学級での学習に意欲を持たせる。